

〔研究ノート〕

## 木村鷹太郎『東洋西洋倫理学史』の蔡元培 『中国倫理学史』への影響

龔 穎

### はじめに

明治以降、日本における倫理学が幾つかの段階を経て個性豊かな学問分野に成長してきた。その過程においては、木村鷹太郎著『東洋西洋倫理学史』の出版はその学問的成長の象徴的な出来事であり、特筆に価することでもある。この点に関しては、著名な中国思想文化史研究者である金谷治氏は、「（木村『東洋西洋倫理学史』の「東洋倫理学史」部分は）我が国最初の、そして極めて特色のある東洋倫理学史」だと絶賛していた。当時の「東洋倫理学史」は、即ち今日でいう「中国倫理学史」のことである。倫理学というのは、中国や日本・朝鮮半島などの国と地域を含めた東アジアにおいて日本が先立って西洋から導入してきた学問分野なので、「日本初」であれば、イコール「アジア初」ということになるだろう。木村鷹太郎著『東洋西洋倫理学史』はその出版当時から中国大陸に影響を及ぼし、蔡元培著中国初の『中国倫理学史』の重要な参考書にもなっていた。

よって、本稿は、木村著『東洋西洋倫理学史』の第一部「東洋倫理学史」の特色などを明らかにする上で、蔡著『中国倫理学史』への影響を確認することを目標とする。この作業を通して、西洋倫理学の受容と変容をめぐる近代初期における日本と中国との思想交流の一例を増やしたいと思う。